

表3-3-3 地域の無秩序と犯罪不安感との関連

	犯罪不安感				
	空き巣	忍び込み	ひったくり	子供への声かけ	ちかん
集団でたむろして、たばこを吸っている少年	-0.07	0.00	-0.02	-0.09	0.06
路上で言い争っている人	-0.04	-0.14	-0.07	0.02	0.10
浮浪者らしい人	0.12	0.15	0.06	0.11	0.24
夜間走り回る暴走族	-0.20	-0.13	0.13	-0.09	0.03
路上のゴミ	0.00	-0.03	0.24	0.15	0.20
空き地のゴミ	-0.08	-0.03	0.21	0.08	0.10
壊されたり、落書きされた公園のベンチや公衆電話	-0.07	-0.15	0.09	-0.01	0.04
路上に乗り捨てられた自転車やバイク	-0.03	0.04	0.14	-0.01	0.16
路上の人目に付くところに風俗店の立て看板	-0.06	-0.04	0.25	0.09	0.19
わいせつな雑誌やビデオの自動販売機	0.06	0.10	0.15	0.18	0.24
テレクラの会員券やツーショットカードの自動販売	0.03	0.14	0.10	0.14	0.14

4 日常の安全確保の取り組み

表3-4-1、表3-4-2、表3-4-3は、地域住民による日常の安全確保の取り組み、特に近所の人や警察と協働して行う安全確保の取り組みと治安状況との関連（相関係数）を示したものである。

表3-4-1から表3-4-3に共通して示された、治安状況以外の変数の内容は以下のとおりで、いずれも各町丁目単位で回答者の回答を平均したものである。

「不審な人物を見つけたら、近所の人に注意を促す」「外出するとき、近所の人や管理人に一声かける」「近所の人と防犯パトロールをする」「近所の人と地域の安全について話し合う」・・・この4項目はいずれも日常どの程度心がけて行っているかを、「いつもしている」「ときどきしている」「ほとんどしない」で尋ね、心がけて行っている方をプラスに得点化した。

「地域の防犯活動や非行防止活動への参加」・・・現在、地域の防犯活動や非行防止活動にどの程度参加しているかを、「積極的に参加している」「一応参加している」「参加していない」「この地域では、そのような活動が行われていないと思う」の4件法で尋ね、積極的な参加の方がプラスになるように得点化した。

まず、「日常の安全確保の取り組み」と回答者の自己報告による犯罪被害経験及び伝聞との関連（相関係数）を示したのが、表3-4-1である。「空き巣などの侵入盗」については、侵入盗が起きているとの伝聞が多い地域では地域住民が協働して安全確保のために積極的に取り組む傾向が見いだされる。一方、「家や敷地への無断侵入」については、無断侵入の被害の自己報告や伝聞の多い地域では、「外出するとき、近所の人や管理人に

一声かける」や「近所の人と防犯パトロールをする」が少なくなっている。なお、「車や壁が無法に壊されること」については、バンダリズムの被害の自己報告の多い地域では、「不審な人物を見つけたら、近所の人に注意を促す」ことが少なくなっている。なお、図3-4-1に、「外出するとき、近所の人や管理人に一声かける」および無断侵入盗被害の自己報告の町丁目別集計値を図示した。

表3-4-1 日常の安全確保の取り組みと犯罪被害の自己報告・伝聞との関連

	空き巣などの侵入盗		家や敷地への無断侵入		車や壁が無法に壊されること	
	被害	伝聞	被害	伝聞	被害	伝聞
不審な人物を見つけたら、近所の人に注意を促す	-0.03	0.30	-0.07	0.02	-0.19	-0.13
外出するとき、近所の人や管理人に一声かける	-0.02	0.18	-0.33	-0.19	-0.07	0.11
近所の人と防犯パトロールをする	-0.06	0.28	-0.16	-0.06	0.08	0.00
近所の人と地域の安全について話し合う	0.05	0.27	-0.14	0.00	-0.03	0.05
地域の防犯活動や非行防止活動への参加	-0.05	0.28	-0.13	0.10	0.03	0.09

次に、表3-4-2は、「日常の安全確保の取り組み」と侵入盗、ひったくりの認知件数（人口千人あたり）との関連（相関係数）を示したものである。侵入盗の認知件数（人口千人あたり）については、平成8年から平成9年上半期の値に関して、「不審な人物を見つけたら、近所の人に注意を促す」ことが少ない地域ほど、侵入盗の認知件数が多いことになっている。一方、ひったくりの認知件数については、「近所の人と地域の安全について話し合う」ことが少ない地域ほど、ひったくりの認知件数（平成8～9年と平成10年の合計）が多いことが示されている。

表3-4-2 日常の安全確保の取り組みと認知件数との関連

	認知件数					
	侵入盗			ひったくり		
	H8～9年	H10年	計	H8～9年	H10年	計
不審な人物を見つけたら、近所の人に注意を促す	-0.15	-0.01	-0.11	0.07	0.11	0.11
外出するとき、近所の人や管理人に一声かける	0.00	0.12	0.05	-0.10	0.11	0.02
近所の人と防犯パトロールをする	-0.10	-0.07	-0.11	-0.07	-0.05	-0.07
近所の人と地域の安全について話し合う	0.06	-0.06	0.03	-0.14	-0.14	-0.17
地域の防犯活動や非行防止活動への参加	0.06	0.05	0.07	-0.07	-0.10	-0.10

「外出するとき、近所の人や
管理人に一声かける」

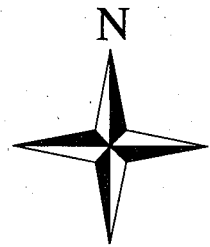
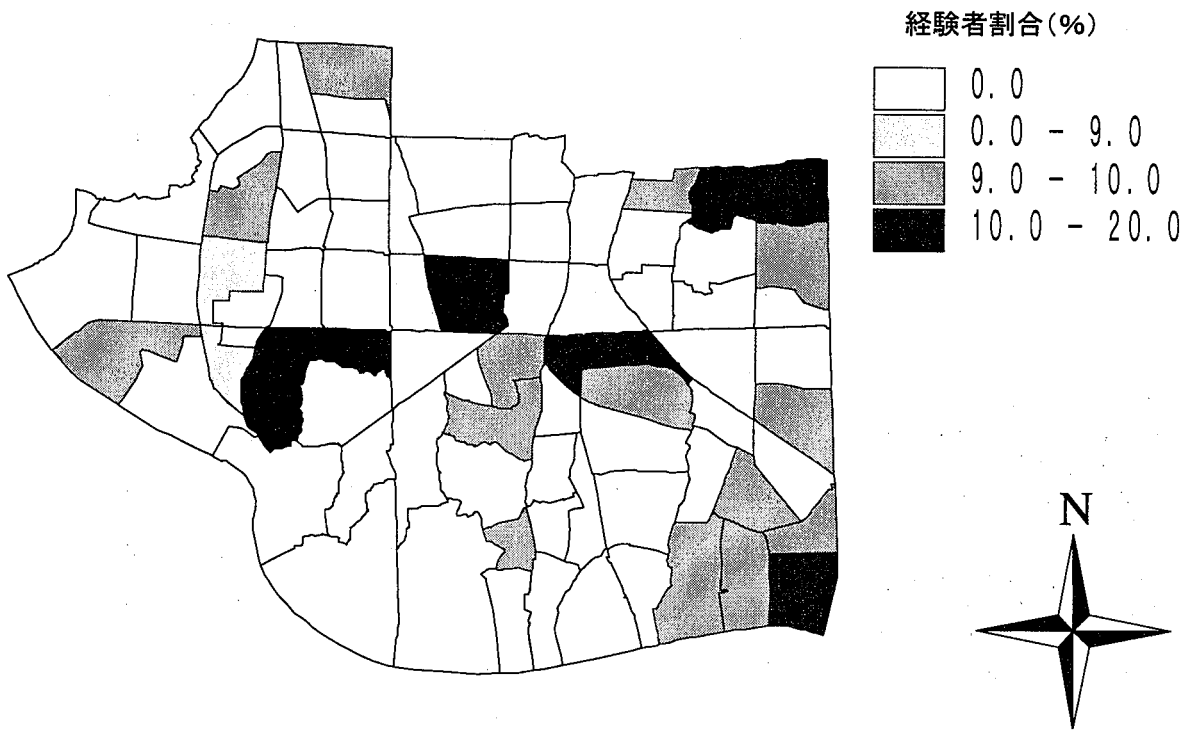
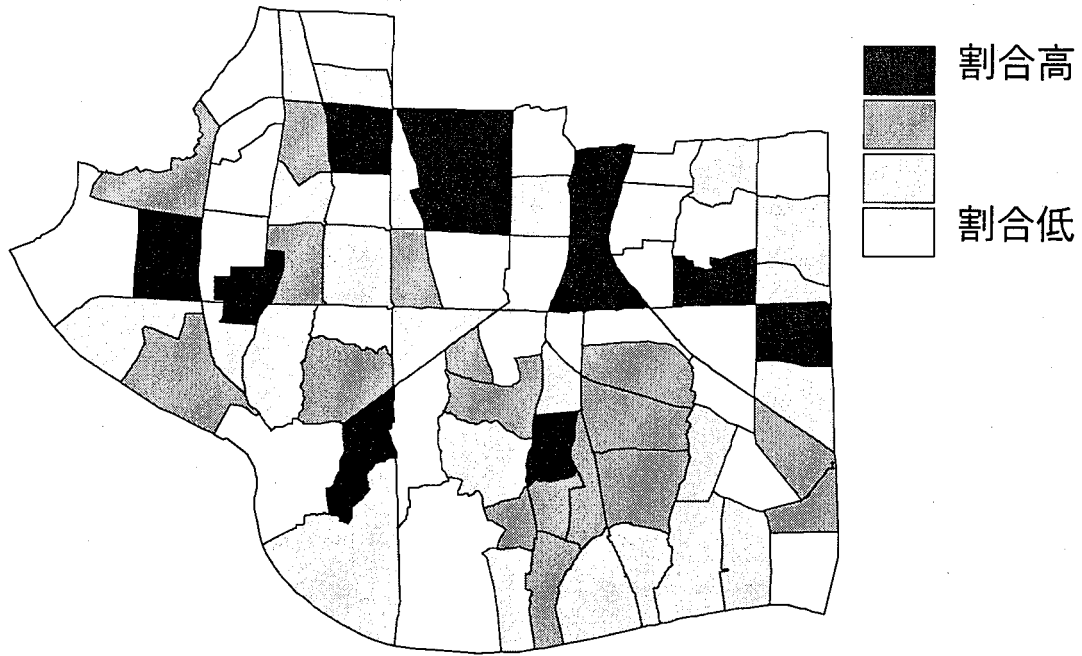


図3-4-1 日常の安全確保の取り組みと無断侵入被害の自己報告

また表3-4-3は、「日常の安全確保の取り組み」の各変数と各種犯罪被害に対する不安感（町丁目単位の平均値）との関連（相関係数）を示したものである。「不審な人物を見つけたら、近所の人に注意を促す」については、「空き巣」や「ちかん」に対する不安感の高い地域で多く実施されている。一方、「近所の人と地域の安全について話し合う」については、ひったくりに対する不安感の高い地域ほど実施されていないことが明らかである。

表3-4-3 日常の安全確保の取り組みと犯罪不安感との関連

	犯罪不安感				
	空き巣	忍び込み	ひったくり	子供への声かけ	ちかん
不審な人物を見つけたら、近所の人に注意を促す	0.15	0.01	0.08	0.14	0.21
外出するとき、近所の人や管理人に一声かける	0.07	-0.04	-0.02	0.02	0.09
近所の人と防犯パトロールをする	0.03	-0.07	-0.10	-0.07	0.10
近所の人と地域の安全について話し合う	0.01	-0.10	-0.16	-0.04	0.10
地域の防犯活動や非行防止活動への参加	-0.02	-0.11	-0.01	-0.03	0.13

5 警察の安全確保の取り組み

次に、表3-5-1、表3-5-2、表3-5-3は、地域住民の目から見た警察の安全確保の取り組みと治安状況との関連（相関係数）を示したものである。

表3-5-1から表3-5-3に共通して示された、治安状況以外の変数の内容は以下のとおりで、いずれも各町丁目単位で回答者の回答を平均したものである。

「警察の情報提供」・・・警察の地域住民に対する情報提供がどの程度十分か、あるいは迅速かを以下の4項目で尋ねた。1) 地域内の具体的な犯罪および事故の発生状況に関する情報提供（が十分）、2) 具体的な犯罪被害防止、事故防止の方法に関する情報提供（が十分）、3) 住民が行っている地域の安全を守る活動の状況に関する情報提供（が十分）、4) 地域住民に対する警察の情報提供が迅速。回答選択肢は、1～3までが「まったく十分」から「まったく十分でない」までの4段階に「なんともいえない」を加えた5件法、4では「非常に迅速」から「まったく迅速でない」までの4件法であり、肯定的な回答の方をプラスに得点化して4項目の合計点を用いた。

「警察官による地域内のパトロール」・・・地域の犯罪や非行の防止という点から見て、どの程度十分であるかを、「まったく十分」から「まったく十分でない」までの4件法で尋ね、肯定的な回答の方をプラスに得点化した。

「警察が住民の要望や意見を把握すること」・・・「警察官による地域内のパトロール」と同様に、地域の犯罪や非行の防止という点から見て、どの程度十分であるかを、「まったく十分」から「まったく十分でない」までの4件法で尋ね、肯定的な回答の方をプラスに得点化した。

まず、「警察の安全確保の取り組み」と回答者の自己報告による犯罪被害経験及び伝聞との関連（相関係数）を示したのが、表3-5-1である。「空き巣などの侵入盗」については、有意な関連が見られない。「家や敷地への無断侵入」については、警察の情報提供が不十分と住民が評価する地域では、無断侵入の伝聞が多い傾向が見いだされる。一方、「車や壁が無法に壊されること」については、「警察官による地域内のパトロール」や「警察が住民の要望や意見を把握すること」が不十分と住民が評価する地域では、バンダリズムの被害の自己報告や伝聞が多くなっている。なお、「警察が住民の要望や意見を把握すること」およびバンダリズムの被害の自己報告の町丁目別集計値は、図3-5-1に、示されている。

表3-5-1 警察の安全確保の取り組みと犯罪被害の自己報告・伝聞との関連

	空き巣などの侵入盗		家や敷地への無断侵入		車や壁が無法に壊されること	
	被害	伝聞	被害	伝聞	被害	伝聞
犯罪発生状況と防止法に関する情報提供	-0.03	-0.03	-0.06	-0.15	-0.10	-0.11
警察官による地域内のパトロール	-0.05	0.06	0.14	0.12	-0.23	-0.31
警察が住民の要望や意見を把握すること	-0.09	0.01	0.14	0.11	-0.28	-0.30

次に、表3-5-2は、「警察の安全確保の取り組み」と侵入盗、ひったくりの認知件数（人口千人あたり）との関連（相関係数）を示したものである。侵入盗の認知件数（人口千人あたり）については、有意な関連は示されていない。一方、ひったくりの認知件数については、「警察が住民の要望や意見を把握すること」が十分と住民が評価する地域で、ひったくりの認知件数（平成8～9年）が多いことが示されている以外は有意な関連は見られない。

「警察が住民の要望や
意見を把握すること」

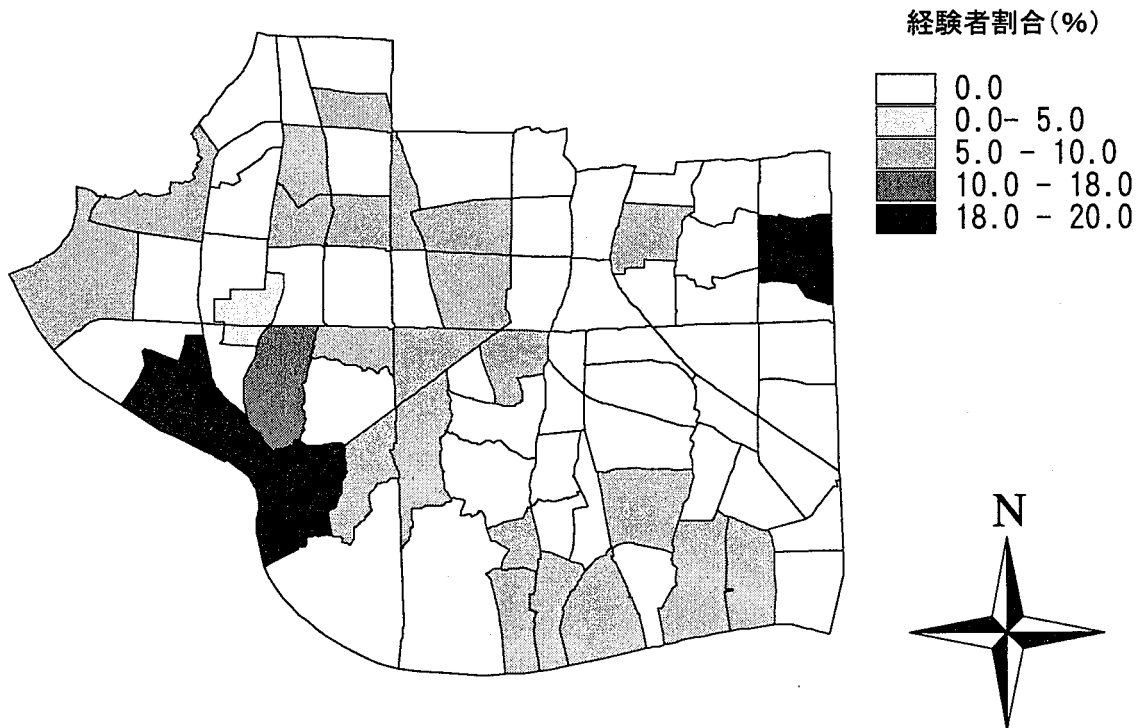
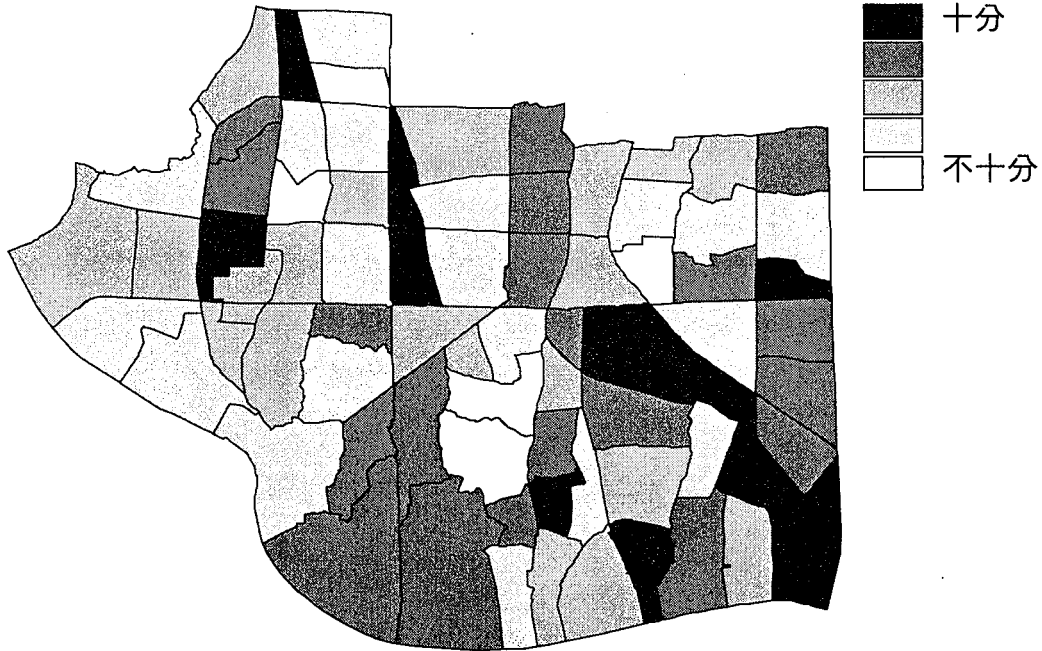


図3-5-1 警察の安全確保の取り組みとバンダリズム被害の自己報告

表3-5-2 警察の安全確保の取り組みと認知件数との関連

	認知件数					
	侵入盗			ひったくり		
	H8～9年	H10年	計	H8～9年	H10年	計
犯罪発生状況と防止法に関する情報提供	0.02	0.04	0.03	0.14	0.04	0.11
警察官による地域内のパトロール	-0.12	-0.01	-0.10	0.11	-0.05	0.02
警察が住民の要望や意見を把握すること	-0.05	-0.01	-0.04	0.16	0.03	0.11

また表3-5-3は、「警察の安全確保の取り組み」の各変数と各種犯罪被害に対する不安感（町丁目単位の平均値）との関連（相関係数）を示したものである。「警察官による地域内のパトロール」については、住民が不十分であると評価をする地域で、「ひったくり」や「ちかん」に対する不安感が相対的に高くなっている。一方、「警察が住民の要望や意見を把握すること」については、住民が十分であると評価する地域で、むしろ「忍び込み」に対する不安感が高いことが示されている。

表3-5-3 警察の安全確保の取り組みと犯罪不安感との関連

	犯罪不安感				
	空き巣	忍び込み	ひったくり	子供への声かけ	ちかん
犯罪発生状況と防止法に関する情報提供	-0.02	-0.06	-0.09	0.03	-0.07
警察官による地域内のパトロール	-0.01	-0.02	-0.19	-0.11	-0.25
警察が住民の要望や意見を把握すること	0.14	0.16	-0.03	0.05	-0.08

6 地域内の安全確保の取り組み

表3-6-1、表3-6-2、表3-6-3は、地域内の安全確保の取り組みと治安状況との関連（相関係数）を示したものである。

表3-6-1から表3-6-3に共通して示された、治安状況以外の変数の内容は以下のとおりで、いずれも各町丁目単位で回答者の回答を平均したものである。

「街の明るさ（街灯や防犯灯の明るさ）」「視線の通りにくい道路脇や樹木・植栽の管理」「不審者の潜みやすい公園などの管理」「草むら、空き地の管理、廃屋の撤去」「青少年の非行を防止するための環境浄化活動」「地域住民の地域内のパトロール」「地域環境に対する自治体の働きかけ」・・・いずれの項目も、地域の犯罪や非行の防止という点から見て、どの程度十分であるかを、「まったく十分」から「まったく十分でない」までの4件法で尋ね、肯定的な回答の方をプラスに得点化した。